



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局

Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>

Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 401 号

(創刊 1988.12.14)

2023.2.05.

横環南線工事費 8,000 億円にも！

1月18日の事業評価監視委員会(継続審議)に於いて原案通りで承認される。そして、更なる工事費増大も取りざたされている。

この都市部における巨大横環南線計画は完全な失敗だ！

平成7年(1995年)の都市計画決定は工事費2,000億円だった。4~5倍だ！なんでこんなバカなことが起きるのか？

【事業評価監視委員会の工事費増額の経緯】

◆ 第一回(2005年) 4,300億円、B/C 2.2

工事費 2,300億円増(内訳明示無し)

◆ 第2回(2009年) 4,300億円、B/C 1.7

◆ 第3回(2012年) 4,300億円、B/C 1.5

◆ 第4回(2015年) 4,720億円、B/C 1.5

工事費 420億円増(内訳は下記4件)

① 360億円：シールドマシン、セグメント単価上昇

② 30億円：釜利谷ランプトンネル
独立避難通路追加

③ 10億円：公田IC部試験工事にて地下水対策で壁状注水工法への変更

④ 20億円：神戸橋開口部の蓋掛構造変更

◆ 第5回(2020年) 5,820億円、B/C 1.2

工事費 1,100億円増(内訳は下記5件)

① 160億円：庄戸トンネル非開削工法変更、低土被り部導坑を円形に変更、周辺地下水変動対策追加

② 120億円：栄IC・JCT、栄～戸塚間
軟弱地盤対策

③ 250億円：栄IC・JCT橋梁下部杭長変更、
鉄道・河川を跨ぐ架設方法変更

④ 300億円：シールド発生土の公共事業活用
のための土質改良、設備の追加

⑤ 270億円：発生土中ヒ素の除去施設で処理

◆ 第6回(2022年) 7,920億円、B/C 0.8

工事費 2,100億円増(内訳は下記4項目

“13件”) ⇒(13件内容は次号で報告)

① 198億円：関係機関協議に基づく増

② 223億円：現地条件変更

③ 1,141億円：計画工法の具体化

④ 538億円：鋼材単価の上昇

【何故、こうも工事費が膨らんだか？】

都市計画決定から第一回事業評価委員会までには10年経過し測量・地質調査等を終え設計・用地説明の時期であり、基本工事設計行い2,300億円の増の4,300億円で出来るとしたのであろう。

結果から言えば、この時点で8,000億円の工事費が算出されていなければならなかったのだ！では今回の工事費増はなぜか？

○事業者である国交省・NEXCO 東は全く技術を持っていなかったと言える。(事業者責任の欠如である)

都市部の3車線トンネルの施工実績はない中で、単に片道3車線道路・50%がトンネル・その掘削量・巻き立てコンクリート量程度から工事ボリュームを出したのであろう。栄JCT地区～笠間公田トンネル地域はかつては海域だった軟弱地盤帯、庄戸地区大規模埋め立て住宅地内における掘削など、多くの特殊性や都市地域での配慮は一顧だにされなかったのであろう。

○そして、工事費増額は工事实施の中で出て来た。詳細に検討もされず出たところ勝負の感覚だったと言え、事業者責任である。

○第一回委員会以後の増加分約3,600億円の内のこれら事業者責任分は事業者が負担すべきである。(事務局長 長谷川誠二)

【対外活動報告】

01/14 外環訴訟5周年大会(三鷹、会長)

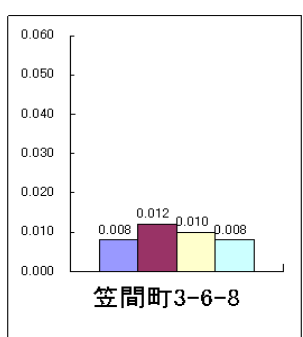
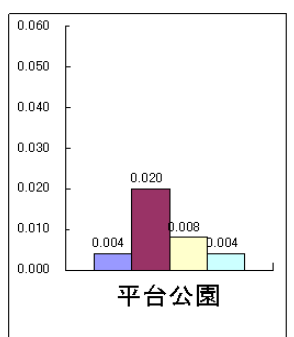
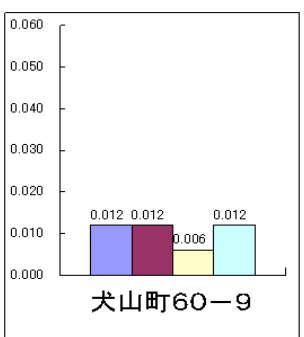
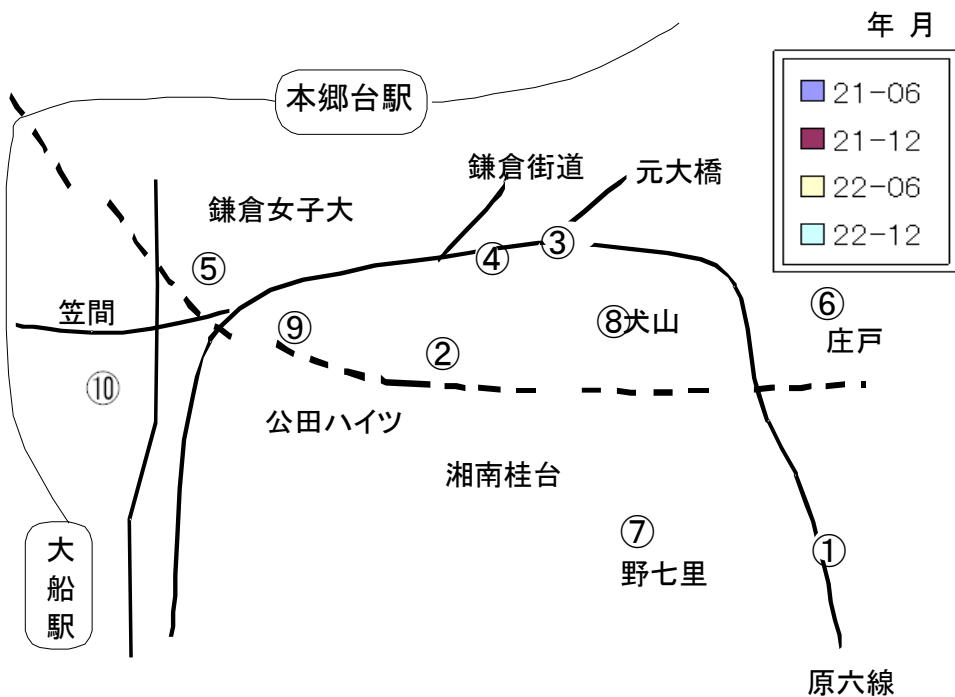
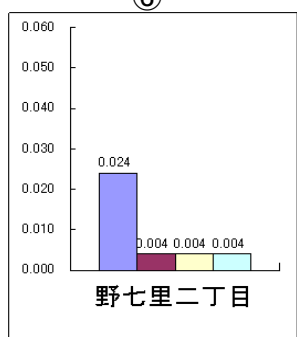
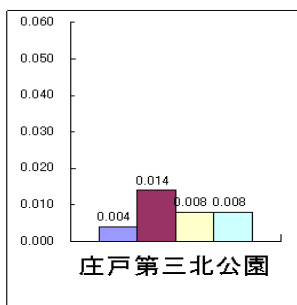
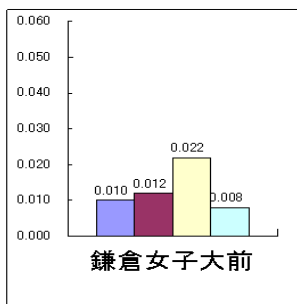
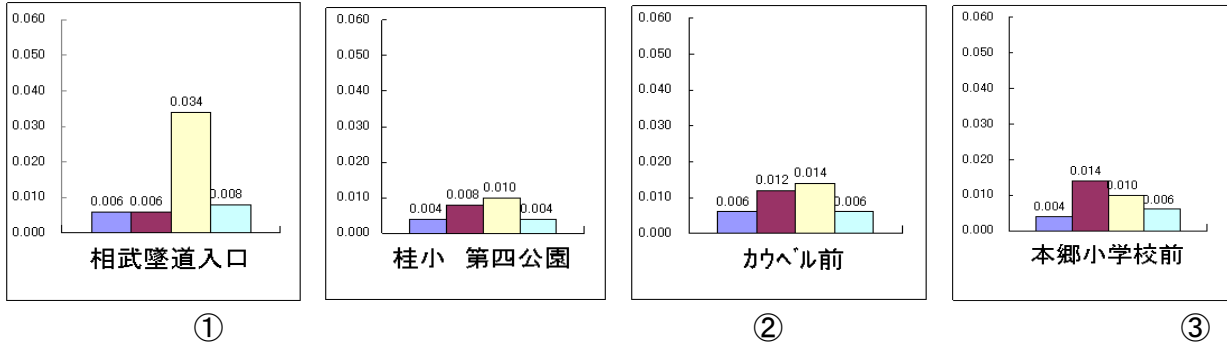
01/17 事業評価監視委員会(翌18日)への意見書提出

01/24 早稲田ユキ事務所問合せ(事業評価監視委員会問題)に現況と意見の送付

02/02 事業者より1/17意見書関連説明

令和4年(2022年)12月の定点測定結果まとまる

連協環境部では各団体参加のもと、毎年6月と12月の2回第一木、金、土曜日を使って栄区内の定められた場所22箇所に二酸化窒素の濃度を測定するカプセルを設置して、所謂定期定点観測を続けております。今回は晴・曇、風4の中での測定でした。以下は主な測定点の値を過去3回分と合わせたグラフです。いずれも環境基準0.0060ppm以内でした。



二酸化窒素測定作業

試薬及び試薬付きろ紙は有限会社筑波総研より取り寄せております。カプセルの準備(木)。カプセルにろ紙をセットし、ひも付きカップ、記録紙と共に各団体に分けます。測定(木⇒金)。各団体は担当の各ポイントにその番号のカプセルを24時間設置した後回収します。分析(土)。カプセルに試薬を加えると、ろ紙が吸収した二酸化窒素と反応して赤紫色に着色します。その濃度をエコアナライザーNoxで測定します。ppmでデジタル表示されます。